



世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎名誉市民顕彰会

FOR THE WELFARE AND
HAPPINESS OF ALL MANKIND

世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎
名誉市民顕彰会

平成25年度事業報告

2013

何とか立派な久留米にしたい 人と自然と郷土を愛した正二郎

墓前祭

平成25年9月10日・千栄禅寺にて開催

寺町にある千栄禅寺にて、平成25年度の石橋正二郎名誉市民（以下正二郎と記す）墓前祭が、同氏の命日前の9月10日に行われた。

会場の千栄禅寺には百人を超す市民が集まり、入口には生前の写真も飾られ、正二郎を偲びました。

会場では、献花等が行われた後、出席者を代表して名誉市民顕彰会の本村康人会長が「あなたは特に、愛郷心深く、ふるさと久留米に対して限りない愛情を注がれました。今日、久留米市は文化やスポーツ・高等教育の面で全国でも高い評価を受けていますが、あなたのご貢献を抜きにしてこれを語ることはできません」と墓前に語りました。



足跡を振り返る記念ウオーキング

平成25年11月17日開催

「私は、愛郷心から私の会社の工場を永久に発展させたい念願であり、従って会社ばかり繁栄しても調和がとれないから、何とかして立派な久留米にしたい。(中略)清潔で整然とした秩序を保ち、教養の高い、豊かで住みよい、楽しい文化都市にしたいと願うものである」

(石橋正二郎～遺稿と追想～より)

正二郎は久留米市の都市づくりに尽力を惜しみませんでした。

そのゆかりの地を訪ねる「石橋正二郎名誉市民ゆかりの地めぐり」が平成25年11月17日に開催されました。当日のコースは、石橋文化センターを出発し、ブリヂストン久留米工場までの約5キロのコース。



石橋文化センター①

「世の人々の楽しみと幸福の為に」

終戦直後の子どもたちを明るくしたいという正二郎の思いから生まれた、石橋文化センター。ブリヂストンタイヤ創立25周年を記念して昭和31年(1956)に久留米市に寄贈された。毎年春には園内にある330品種、2500株のバラを楽しむ「バラフェア」に県外からも多くの人が訪れている。

千栄禅寺② 石橋家の菩提寺。正二郎は老朽化が進んだ千栄禅寺本堂庫裡を全面改装し、1959年(昭和34)寄進した。ステンド風のガラス窓を通した光は、5色の輝きとなって本堂内部に降り注いでいる。こうした洋風の雰囲気と外観から、創業者の合理性と独創性を感じとることができる。1982年(昭和57)には、石橋幹一郎により坐禅堂が寄進された。毎年9月には、石橋正二郎名誉市民顕彰会により、ここ菩提寺において墓前祭がとり行なわれている。

櫛原記念館(旧教育会館)③

1956年(昭和31)、久留米の教育家、実業家などで、戦後の混迷をうれい、中正穏健なる教育の振興をはかる目的をもって久留米教育クラブが結成された。この趣旨に賛同した正二郎は、惜しめない支援をした。石橋財団の事業の一端として、正二郎の旧宅(220坪)を改造、秩父宮殿下のご宿泊に供した別館(70坪)とともに教育会館に提供し、1957年(昭和32)4月に開館した。さらに1960年(昭和35)には講堂(70坪)を新築した。

石橋記念くるめっ子館④

1956年(昭和31)市長公舎として久留米市に建設寄贈した。2002年(平成14)から子どものための施設として様々な活動を行っている。

久留米大学 医学部⑤

正二郎は39歳にして兄徳次郎と共に10,000坪の学校用地提供、校舎(1200坪)を建設寄贈し、1928年(昭和3)九州医学専門学校(現・久留米大学医学部)の設立に貢献した。1932年(昭和7)には、大学付属病院建設では、設計から参画し地下1階地上3階(延5000坪)の建物を久留米市に建設寄贈した。

久留米城跡・有馬記念館⑥

1621年(元和7年)に有馬豊氏久留米藩主として入封以来、明治維新まで11代、約250年間の長きにわたり有馬氏の居城であった。廃藩置県後、徐々に城の建物が取り壊され、城地と共に売却されていったが、石橋正二郎の祖父にあたる緒方安平ほか数名の尽力で本丸は保存され、1877年(明治10)には、篠山神社が創建された。また、1960年(昭和35)久留米市制70周年を機に、表参道の自動車道路をはじめ城跡を整備し、有馬記念館の建設や東郷記念館、茶室千松庵の移設などにより面目を一新した。

ブリヂストン通り

1955年(昭和30)「ブリヂストン通り」を久留米市に造成寄贈した。季節ごとに色づくケヤキのある道は市民に親しまれている。

ブリヂストン久留米工場⑦

1930年(昭和5)、純国産技術による第一号タイヤの誕生に続いて、翌1931年(昭和6)、ブリヂストン久留米工場は同社のマザープラントとして、タイヤの国産化を使命に操業を開始した。

石橋正二郎名誉市民の足跡を振り返る記念ウオーキング5キロのコース

- スタート ①石橋文化センター→②千栄禅寺→③櫛原記念館→④石橋記念くるめっ子館→⑤久留米大学医学部→⑥久留米城跡・有馬記念館→ブリヂストン通り→⑦ブリヂストン久留米工場 5kmゴール



創業者 石橋正二郎

事業に対する理想
人間を幸福にするものは
文化を高める
生活を豊にする



創業当時のタイヤ

ブリヂストン久留米工場見学

平成26年2月8日開催

石橋正二郎は、昭和9年にブリヂストンタイヤ会社久留米工場を竣工し、乗用車用タイヤの本格的な生産を開始しました。

現在、久留米工場は創業者の精神を受継ぐ、ブリヂストンの「マザープラン」と呼ばれています。

平成26年2月8日、参加者は50人でブリヂストン久留米工場を見学しました。

2階のエントランスには創業当時の社長室を再現した部屋、年表、創業当時のタイヤなどが展示されています。

ブリヂストンの歴史、正二郎のゆかりの地など説明を受け、映像をみた後、専用デッキからの工場見学を行いました。



創業者 正二郎の国産タイヤにかけた情熱

進学を断念し家業を継ぐ

石橋正二郎は、1889年(明治22)、徳次郎・マツの次男として久留米市本町に生まれました。子どもの頃の正二郎は、体が虚弱なため小学校も欠席がちで、無口、内向的な子どもであったといわれています。しかし、学業成績ははずば抜けていました。

久留米商業学校の在学中、正二郎は上級の学校である高等商業学校へ進学する志を抱きました。日本が日露戦争の戦勝国となり、青年は世界に雄飛する夢を描いていたのです。ところが、病床にあった父は家業を継ぐよう命じました。正二郎はやむなく進学を断念し、兄とともに仕立物業の「志まや」を引き継ぎました。17歳のときでした。

正二郎は自伝「私の歩み」の中で、「私は、一生をかけて実業をやる決心をした以上は、何としても全国的に発展するような事業で、世のためにもなることをしたいと夢を描いていた」と述べています。正二郎は事業家になろうと新たな志を立てたのでした。

純国産タイヤをつくりたい

家業を継いだ正二郎は、まず仕立物業を足袋専業に改め、無給で働く徒弟制度を廃止して有給制度を採用しました。それを

知った父はひどく叱りましたが、正二郎は「長時間、無給という労働条件では働く人にやる気がおこらない。働くには喜びが必要だ」と考えました。その後も正二郎は、均一価格の導入、地下足袋の創製、ゴム靴の量産などで事業を発展させていきました。

1928年(昭和3)頃、正二郎は自動車タイヤの国産化を決意しました。三十九歳のときです。正二郎はその計画についてこう述べています。

「当時、わが国の自動車保有台数はわずかに5、6万台といわれ、そのタイヤは殆んどが欧米からの輸入品であったから、私は国産タイヤを安価に供給することは、わが国の自動車の発達に大きく貢献するものと思った」

折しも、日本経済は深刻な不況が続いていました。しかも、タイヤ製造の技術が非常に難しかったので社内の人びとはこの計画に反対しましたが、正二郎の決意は変わりませんでした。

1930年(昭和5)、日本足袋タイヤ部により第一号タイヤが誕生し、翌年、久留米市にブリヂストンタイヤ株式会社が創立されました。日本人の資本で、日本人の技術による自動車タイヤの国産化が成功したのです。それから20年ほどして、同社は業界首位に立ちました。



記念タイヤ前にて



建設中のブリヂストンタイヤ(株)久留米工場

語り継ぐ 尊い理念や功績を深く心に刻む



石橋正二郎のあゆみ

- 1889(明治 22)年 2月1日、久留米市本町一丁目に初代石橋徳次郎・マツの次男として出生。徳次郎が仕立物業の「志まや」を始める。
- 1892(明治 25)年 3歳 久留米市荘島小学校に入学する。
- 1895(明治 28)年 6歳 久留米高等小学校に入学する。／図画の代用教員だった坂本繁二郎に図画を学ぶ。
- 1899(明治 32)年 10歳 久留米商業学校に入学する。
- 1902(明治 35)年 13歳 久留米商業学校を卒業。兄とともに家業を継ぐ。
- 1906(明治 39)年 17歳 家業の仕立物業を足袋専業に改める。
- 1907(明治 40)年 18歳 久留米市内に小工場を建て、機械生産を始める。
- 1908(明治 41)年 19歳 九州で初めての自動車を購入し、宣伝に使用、効果をあげる。
- 1912(明治 45)年 23歳 「志まやたび」を「アサヒ足袋」と改称。20銭均一の販売を実施。
- 1914(大正 3)年 25歳 日本足袋(株)(後の日本ゴム(株))を創立して、専務取締役役に就任する。洗町の新工場が竣工する。
- 1918(大正 7)年 29歳 アサヒ地下足袋を創製、販売する。
- 1923(大正 12)年 34歳 九州医学専門学校(現・久留米大学)創立にあたり、敷地と校舎を寄付する。
- 1928(昭和 3)年 39歳 日本足袋(株)の倉庫を改造して、タイヤ試作工場とする。
- 1929(昭和 4)年 40歳 自動車タイヤの試作を開始する。日本足袋(株)取締役社長に就任する。／純国産自動車タイヤ第一号誕生する。
- 1930(昭和 5)年 41歳 久留米市にブリヂストンタイヤ(株)を創立、社長に就任する。
- 1931(昭和 6)年 42歳 自動車タイヤの輸出を始める。
- 1932(昭和 7)年 43歳 ブリヂストンタイヤ(株)久留米工場が竣工する。
- 1934(昭和 9)年 45歳 ブリヂストンタイヤ(株)本社を東京に移す。
- 1937(昭和 12)年 48歳 日本ゴム(株)創立20周年記念事業として武徳殿を建設し、久留米市に寄付する。
- 1938(昭和 13)年 49歳 地下足袋の創製と量産、国産タイヤの貢献をもって緑綬褒章を受ける。
- 1940(昭和 15)年 51歳 (太平洋戦争が始まり、昭和20年に終戦)
- 1941(昭和 16)年 52歳 経団連常任理事に就任する。／天皇陛下久留米工場に行幸される。
- 1949(昭和 24)年 60歳 グッドイヤー社の招きに応じて渡米、同社と技術提携の交渉を始める。日本ゴム工業会が創立され、会長に就任。
- 1950(昭和 25)年 61歳 久留米大学理事長、共立女子学園理事に就任。
- 1951(昭和 26)年 62歳 東京京橋にブリヂストンビル落成、ブリヂストン美術館開館。東京国立近代美術館評議員に就任する。
- 1952(昭和 27)年 63歳 九州北部大洪水にて久留米工場一部浸水、製造中の自動車タイヤ用チューブを放出して人命救助する。
- 1953(昭和 28)年 64歳 ブリヂストンタイヤ(株)の本年度売上高は、100億円を突破し、業界首位に立つ。
- 1954(昭和 29)年 65歳 久留米大学商学部の敷地と建物の払下げ代金を寄付する。
- 1955(昭和 30)年 66歳 久留米地区に従業員用アパート群、付属幼稚園、スポーツセンターなどの厚生施設完成。
- 1956(昭和 31)年 67歳 「ブリヂストン通り」を造成して久留米市に寄付。・ブリヂストン吹奏楽団久留米が結成される。
- 1957(昭和 32)年 68歳 ブリヂストンタイヤ(株)創立25周年を迎え、久留米工場にて記念式典を挙げる。記念事業として石橋文化センター(石橋美術館含む)、市長公舎を建設して久留米市に寄付する。／財団法人石橋財団を設立して理事長となる。／ヴェネツィア・ビエンナーレ展日本館を建設寄付。
- 1958(昭和 33)年 69歳 久留米市より名誉市民の称号を受ける。／久留米商業高校に講堂武道場を建設寄付。
- 1959(昭和 34)年 70歳 この頃から久留米市の小、中学校21校にプールを建設寄付。ブリヂストンカンツリー倶楽部を創設する。
- 1960(昭和 35)年 71歳 梅林寺外苑を造園して寄進する。／私学振興の故をもって藍綬褒章を受ける。／日本自動車タイヤ協会会長に就任する。
- 1961(昭和 36)年 72歳 国立西洋美術館評議員、東京国立博物館評議員に就任する。
- 1962(昭和 37)年 73歳 有馬記念館を建設、久留米市に寄付する。／フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章を贈られる。(日仏文化交流の功績による)
- 1963(昭和 38)年 74歳 イタリア政府よりメリト勲章を贈られる。(日伊文化交流の功績による)／長者番付で日本一となる。
- 1964(昭和 39)年 75歳 石橋コレクション・パリ展開館式出席を兼ねて欧米に旅行。
- 1965(昭和 40)年 76歳 ブリヂストンタイヤ(株)社長を辞任、会長に就任。社長に、副社長石橋幹一郎が就任する。
- 1966(昭和 41)年 77歳 石橋文化センターに文化ホール、文化会館を建設し、久留米市に寄付する。
- 1967(昭和 42)年 78歳 勲二等瑞宝章を受ける。
- 1969(昭和 44)年 80歳 財団法人石橋財団より久留米大学附設高校の用地買収資金を寄付する。
- 1971(昭和 46)年 82歳 石橋文化センターの開園10周年記念式典にて、久留米市議会から感謝決議、久留米市から胸像、久留米市民から銀製の感謝楯を贈られる。日伊協会会長に就任する。
- 1973(昭和 48)年 84歳 久留米大学に医学図書館を建設寄付する。
- 1976(昭和 51)年 87歳 東京国立近代美術館竣工、寄贈式を行う。
- 石橋文化センターの日本庭園寄贈式に出席。最後の帰郷となる。
- ブリヂストンタイヤ(株)会長辞任、相談役となる。／久留米商業高校に体育館建設費を寄付。
- 久留米市より米寿を祝って胸像を贈られ、五穀神社境内に建立される。／9月11日、東京日比谷病院にて死去。
- 従三位勲一等瑞宝章を追贈される。／久留米総合スポーツセンター県立体育館にて、市民葬が執り行われる。
- 遺骨は石橋家菩提寺の千栄禅寺、および東京都摩霊園に納められる。

入会のごあんない

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいきます。

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいくため、石橋正二郎名誉市民顕彰会を平成22年8月に組織しました。石橋正二郎名誉市民の理念を広く伝え、これからのまちづくりをすすめる事業を実施していきます。

石橋正二郎名誉市民顕彰会では、多くの方々のご入会を歓迎いたします。

石橋正二郎名誉市民顕彰会の趣旨や活動に賛同し、同会の組織や活動を支援くださる会員を募集しています。活動報告としての会報(年1回)、行事のご案内をお届けします。

- 申込方法
申込み用紙に記入の上、事務局へお申込みください。申込み受付後、下記の銀行口座に指定の年会費をお振込みいただくか、または直接事務局まで納入してください。申込み用紙は事務局に準備しておりますので、お手数ですがお問い合わせください。

- 年会費
個人会員： 1口 年額 1,000円
団体・法人会員 1口 年額 10,000円

- 振込先
口座名義：石橋正二郎名誉市民顕彰会
筑邦銀行 本店営業部 普通預金 3012027
福岡銀行 久留営業部 普通預金 2755875
筑後信用金庫 本店営業部 普通預金 1174358
西日本シティ銀行 東久留米支店 普通預金 1332464
※本人以外の名義で振り込まれる場合にはその旨ご連絡ください。

- 申込み先・問合せ先
石橋正二郎名誉市民顕彰会
〒839-0862
福岡県久留米市野中町1015 石橋文化センター内
TEL 0942-33-2271

●頂いた個人情報は当会からのご案内のためのみに使用され、ご本人の許可なく第三者に開示されることはありません。

世の人々の楽しみと幸福の為に



株式会社ブリヂストンの創業者石橋正二郎は、1889年(明治22)、久留米市に生まれました。家業の仕立物屋からスタートしたのち、地下足袋の創製による成功から、ついには自動車タイヤ国産化の成功などによって、日本のゴム工業の発展と技術革新に尽力しました。名誉市民 石橋正二郎が心から願った言葉があります。「世の人々の楽しみと幸福の為に」これは、人を愛し、事業を愛し、郷里を愛した正二郎の経営理念であり、人生観でした。

石橋正二郎名誉市民顕彰会

- 名誉会長／榎原 利則
- 顧問／原口 新五・神代 正道・飯笹 実
- 会長／本村 康人
- 副会長／橋本 政孝・宮原 岩政
- 理事／橋本 安彦・堤 正則・龍頭 宏典
- 監事／奈良崎 洋治
- 幹事／穴見 英三・有馬 彰博・野田 秀樹
酒井田 達朗・中園 雄介・米替 誓志

事務局／〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015
石橋文化センター内
TEL 0942-33-2271

ホームページアドレス <http://www.shojiro-kenshokai.jp>

石橋正二郎名誉市民顕彰会会報 2013[No.4]
平成26年3月発行

